



発行所
燎原社
〒606 京都市左京区
東竹屋町・川端東入る
部落問題研究所内
電話 京都 761-2141番
振替口座 京都 15762番
発行人
木村 京太郎
部価 1部 100円(税別)
年 2,000円(税共)



一九八一年 盛夏
残暑お見舞申上げます

燎原社

お盆を迎えて 10にも足らない幼な児が

石田昭子

参加費 おねがい 郡部遠隔の地ですが、誘合せ多数ご出席下さい。	テーマ ゲスト トコロ トキ 福知山市西中野町二四七番地元の活動家・故品角一郎氏夫人全小文さんにつき五〇〇円(茶菓料)	「京都府北部における戦前・戦後の農民闘争について」	会話人代表 世話人 会計監査 人計
		気候不順な夏もすき、秋涼の佳候を迎えました。次回の研究例会を次の通りひらきます。次	
		九月二〇日(日)午後一時より (駅前通御靈神社横・細見幸基氏宅 電話〇七七三一一二二二一三六四七番 にについて)	
		大岡西・細見・井塙・井木・稻井・木山・北住 原谷・村川・角上・田上・村田・垣田・牧谷 健元・清三・小喜・庄代・秀兵・京太 次治・三酉・文松・衛雄・郎夫・光次・三治	
		以上	

第19回 研究例会(予告)

順不同

京都の民主運動史を語る会

戦争反対は

天の声、地の声、人の声

。天災と人災

今年も七月から八月上旬にかけ全国のあちこちで祇園祭りが行われたが、とりわけ日本の顔、世界の京都で繰りひろげられた祇園祭りはやはり圧巻であった。祇園祭も五山の送り火も、戦争中一時中止されていた事もあつただけに、今年も平和の尊さを誇示する京の町衆の喜び様はも思える。どうか来年もまた盛大であつて欲しいと願つてやまない。

例年、梅雨が明けて山鉢巡行が終ると暑い夏がやってくる。昨年は冷夏で農家をはじめ夏物衣料、冷房器具、海辺の旅館、民宿、ビール、ジュースなどの売行不振で、多くの人が不況なげていたが、今年は幸いにも当初の気象台の予測がはずれて酷暑が訪れ、やつと一息つけたとの声も聞えて来る。むかし「太陽の黒点の変化が景気の変動を招く」と言う説をとなえる学者があつた由であるが、これが学説と言えるかどうかは別として天候が経済や生活に大きく影響していることは今も昔しも変りない様である。

しかし一方、北海道では気象台開設以来、最高の雨量を示し、開拓一〇〇年、ゆれ動く政府の農業政策の中で土地を拓き、山を、田を、守り続けて来た被災地の人々の事を思うと、速やかな救援と復旧を祈らずにはおられない。災害には自然の災害と人工の災害の

二つに分けられる。勿論、自然の災害の中にも科学や技術によつてある程度防ぎ得るものもあるが、逆に自然に対する働きかける方法を誤り災害も引き起している場合もある。しかし何と言つても人工の災害の最大のものは戦争であろう。

。災害の

八月



二度と許さじ 原爆の残骸

昭和二十年、
八月と見え
ば災害の月で
ある。と言つ

ても高校野球、

大文字、地蔵、

盆、鴨川の夜

店など平和な

催しもあるが、

昭和二十年、

敗戦の年の八月六日広島、九日の長崎、

のアメリカ空軍による原爆投下の被害

を忘ることは出来ない。これに続い

て八月十五日の敗戦の日である。また、

昭和二十八年八月十五日には南山城地

方の水害で、死者、行方不明が三百

人を超えたことはまだ記憶する人も多

い。

去る七月三十日から一週間、京都の

百貨店で「平和のための戦争展」が開

かれ七万人を超える盛況を示した。伝統産業、中小企業、学問、文化、芸術、宗教など、戦争中には抑圧されて来たものが多い京都だけに、参加者の顔も

その中を生き抜いて来た苦労を肌で感じて、再び、戦争への足音を肌で感じているようでもあつた。

原爆投下から三十六年、今年も広島、

長崎、東京を初め全国各地で原水爆禁

止を訴える集

会が開かれ、

世界の国々の

人の参加が見

られた。その

さ中にアメリ

カは中性子爆

弾の製造を決

定した。世界

で始めて核兵

器を使用して

戦争と全く関

係のない婦女

子まで殺し、

三十六年後の

今日、日本が

国民あげて死

者の冥福を祈

り、非核三原

則をかかげあやまちを再びくり返えさ

ぬよう平和を願つてゐる矢先に、中性

子爆弾製造を再開する無神経さ。しか

らも聞くところによると、この爆弾は建

物や戦車をきづつけず中の人にだけを

殺す兵器だそうだ。人を殺して物を残

すところに戦争の本質を見せつけられ

たような気がしてならない。又人よりも

金、人より物がという最近の世相に

似ているようでもある。

。地球は星ではない

私自身は敗戦の時には日本におらず、第一線の軍隊や在留邦人の撤退に当つていたので敗戦は知らなかつた。とにくく戦場では敵を殺すか自分が死ぬか、その選択を迫られる条件下におかれることまで、その中間はない。しかし、今日の核戦争はそれを超えて敵を殺し、自分も死ぬと言う条件下におかれるところまで來ていると言う。二、三年後には米、ソ、いづれも一万発を超える量は世界の全人類を殺してまだ残ると言う。もはや国の存亡どころか人類そのものの存亡の問題であり。地球が宇宙の中の冷い一つの星になってしまふかどうかの別れ道である。今や人間とは何かと言うことが問われている。

戦争反対は天の声、地の声、人の声である。

（稻田 達夫）

第8回 研究例会ひらく

八月二二日午后一時半から京都市中

京区の京都市職員館『かもがわ』で『敗

戦における京都の民主統一運動』について。当時の活動家で『京都における民統運動』の著者小柳津恒氏から報

告を聞き、話し合いました。

内容は次号で報告します。

第18回研究例会報告

京都民統運動の覚え書

浅川亨

等があるが、直接民統成立の基礎になつたのは、労働戦線の統一である。

(2)

五〇年一月一日、全京都労組統一会議準備会がもたれた。ここでは市長選・賃金・労働協約確立のための強力な共斗組織をつくることを申合わせた。

五〇年一月一日、全京都労組統一会議準備会がもたれた。ここでは市長選・賃金・労働協約確立のための強力な共斗組織をつくることを申合わせた。

一、昭和二五年（一九五〇）に民統ができたということは、当時の全国的な情勢から見て、まことに特異な出来事であった。それは、

第一、GHQ（占領軍司令部）が二

・一スト以後、斗争に直接介入してき

たこと、京都だけを例にとってみても、島津や、京都機械の斗争にマッカーサー命令に違反しているという理由で、

第二日赤の医師二名の退職要求とい

うのに対し、組合として逸脱した行動をとったという理由で、其の他デモや宣伝にしても介入してきた。

第二、これに合せて政府では、GHQを背景に、又GHQの指示により弾圧や抑圧政策が次々に行われた。

その一、二例として、四八年にはマ

書翰による政令二〇一号、それに関連して公務員法の改悪、四九年には、労組法、労働調停法の改悪など。

また、経済復興の名の下にGHQは

貨金三原則（物価値上げになるような貸上げは認めない。赤字融資は認めない。補助金は財政の均衡をやぶらない範囲で）、又経済九原則を出して來た。

第三、こういうなかで組合の分裂脱退が行われるようになつた。民主化同盟もその一つだが、これも電産の十月闘争の末期に、東北に緑会というのができたのが発端で、これが国鉄、全通、その内の産別会議の他の単産に波及し、産別とは別に「新産別」ができる等の

分裂行動がおこる。

京都市でも一九四七年四月「地労協」が出来たが、これが四九年に、総同盟、全京金が脱退したのもこうした状勢のなかである。

第四、こうした反動の嵐のなかで経済復興の名の下に企業整備、レッドペイジ、首切りが強行され、これらの斗争のもり上りを抑えるのに四九年の下山・三鷹・松川事件が利用された。

京都でも、これらの情勢には例外でなく、首切りが行われ、組合員数が二四年には一五〇、一六四名であったのが、二五年には、一一六、〇九〇名と約三四、〇〇〇人が減少した。

第五、農民には食糧確保臨時措置法による強制割当や、乙種事業所々得税等の重税を、市民には増加所得税、実質的には天下り割当税、そして差押え競売が強行され、陶磁器では、三〇・五〇%の物品税がかかられ、このため

に地域共斗会議が出来るようになった。

これが当時の情勢であつたが、一方民統が成立を促したものとしては、

民統のため役立つた事は否定

とは若干異なつていた。例えば、四八年の七月十五日の物価改訂京都貨金確立人民大会のデモで、警察官が棍棒で学生をやぶらねばどうにもならぬことが認識されていた。

(3)

当時警察は弾圧機関であるし、実際そのような動きはしていたが、自治体的警察でもあつて、現在のようなもの

以上的情勢の中で、反ファッシ

ヨ、全面講和の気運がたかり、斗争に、学者・文化人をまきこんだ。

口、経済・不況の深刻化、そのなかで、市民、農民の不当課税反対斗争。

ハ、政治的には四九年の衆議院選挙で共産党的躍進、社会黨の失地回復の氣運。

氣運。

警察と乱斗騒ぎのなかで、組合旗がG

Iにとられた事に対し「このトラブルの原因は警察にある。従つて警察は責任をもつてGHQから組合旗を取り戻せ」の要求を容れて、旗を組合に返した。

人権協議が高山氏を推した理由は、

人権擁護斗争をしたこと。自由が参加。

五〇年一月一日、全京都労組統一会議準備会がもたれた。ここでは市長選・賃金・労働協約確立のための強力な共斗組織をつくることを申合わせた。

（元・京都産別会議議長）

京都における戦前の文化運動について

藤谷俊雄

(1) 高知高校入学まで

先程お話をされた大岡さんは私より、少し前から活動されているので、戦前の三・一五事件（一九二八年）や、四・一六事件（一九二九年）といわれる日本共産党はじめ民主的諸団体がきびしい弾圧にあった時期でした。

その後一九三三年（昭和八年）プロレタリア文化連盟も弾圧、つぶされ、日本共産党も佐野、鍋山、三田村などの転向階級的裏切に先立ち一九三二年に岩田義道を中心とする党指導部と共にわたつて一、五〇〇名の党員、共青、全協の活動家が逮捕され、三三年五月には野呂栄太郎、宮本顯治を中心とする党中央委員会が検挙され、三六年七月には全国的に約五〇〇名が一せい検挙で潰滅的打撃をうけ、機關紙『赤旗』も一八七号以後は停刊の状態となりました。

このような反動期に、私どもは組織的な運動の中に入った経験を持つていなし又、私の個人の活動というのは、文化方面ですが、多方面な運動に関係を持っていましたので、その点でも内容がまとまりにくいという事もありました。私が京都に生れ京都二中を卒業したのは一九二九年、その三月に山本寅治代議士が白色テロの凶刃に倒れ、そ

の労農葬が宇治市の花屋敷で行われた時期でした。

私は中卒後一時大谷大学の予科に入りました。当時の大谷大学には曾我了真という講師がおられ、真宗の教義の新しい哲学的な解釈をしようとしていました。この人はいわゆる宗門の改革派と思的につながつていていた訳で、それに対して本山は真宗の伝統的な教義に反する、として弾圧を加えました。

した。

一九三二年の夏だと思いますが、三条青年会館でプロレタリア作家同盟の主催で演説会がありました。この演説会は実質的にはプロレタリア文化連盟の主催のようでしたが、文化連盟の名前では警察が許可しないので、文化連盟所属のいろいろの団体が、メッセージを持って演壇に立ち、警官がそれを全部『中止』を命じる。プロレタリア思想がかなり浸透していました、学生の中にマルクス主義者がおり、その一人の岩倉正治は、戦後に農民作家として『赤旗』に小説を書いています。

當時はなかなかの雄弁家で、アジテーションもうまかった。私なんかも彼に大分影響されたと思います。しかし、結局この運動はつぶされてしまいまし

した。あの当時の高校の学生運動のバターンは、社研から読書会、それから青共と、大体そんな道筋で、学内大きな問題としては学友会改革運動でした。当時の学生運動との係りあいで、私の中学時代の学友で横村

庄一郎君が、京都府立医大にいました。

府立医大の組織がかなり進んでいたようで、彼から『プロレタリア科学』という雑誌をもらいました。また、『共产主義のABC』や、いろいろの共产党主義の文献も進んで読むようになります。

私は翌年、高知高等学校に入学しました。あの当時の高校の学生運動

のバターンは、社研から読書会、それから青共と、大体そんな道筋で、学内大きな問題としては学友会改革運動でした。当時の学生運動との係りあいで、私の中学時代の学友で横村

庄一郎君が、京都府立医大にいました。

府立医大の組織がかなり進んでいたようで、彼から『プロレタリア科学』という雑誌をもらいました。また、『共产主義のABC』や、いろいろの共产党主義の文献も進んで読むようになります。

私はそれまで仏教の研究をやりたいと思っていたのですが、学問の自由のない宗門大学では駄目だと考えるようになりました。

私はそれまで仏教の研究をやりたいと思っていたのですが、学問の自由のない宗門大学では駄目だと考えるようになりました。

私はそれまで仏教の研究をやりたい

マキシズムの集団に参加する事も出来なかつたため、思想的に悩みましたが、とくに天皇制の問題に关心を持ちたいたいこの体制をどう理解したらよいか、マルクス的歴史観、科学的唯物論から見て、どう解釈するかについて一番悩みました。私はそれを理解するため歴史学の研究をすることとなりました。

その他のマルクス主義の歴史観の本も読み漁りました。古代における天皇制が、原始社会は共产主義であったとする、マルクス主義の歴史観はどう結びつくのか。

まあ今から考えますとそう深い理解でもなかつたのですが、一応歴史的唯物論が日本の歴史にも当てはまるのである事に確信を得て、ようやく積極的に活動を始めるようになったのです。

(3) 京都大学に入学して

一九三三年には京大で滝川事件が起りました。かつて大谷大学で起つたような事件が、国立大学で規模が拡大されて起きたということで、私にとっては切実な問題として受けとめ、断じて許すべきでないとして、学内の運動に加わるようになりました。

こうして、高知高校を卒業して京都へ転りましたが、京大では前年の滝川事件について学生の組織が全部弾圧されて、ほとんど残つていなかつた。ただ一人、農学部の学生で、渡部牧という人が中心となつて、新しく高校別出身の線で、いわゆる横の組織を作ら

うとしていた。

私はくわしくは知らなかつたが、直接私に連絡したのは広島高校出身の永島孝雄、この人は非常に優秀な人で我は尊敬していましたが、この人はのうちに検挙され、獄中で死にました。その渡部、永島らとともに自治会準備会結成に参加し、機関紙で軍事訓練反対をとり上げたりしていました。

私はその前から演劇運動をやろうと思つていましたから、京大へ入つて直ちに演劇研究会に入りました。研究会は新入生三人で、月一回ぐるい会合をしました。その一人は森本薰で、(後に有名な脚本家になる)とにかく芝居をやろうじゃないか、と男三人でやれる芝居をさがしたところ、岸田国士の劇で丁度登場人物が男三人の芝居があつた、それをやろうという事になつて、河原町今出川の正定院という寺で、立稽古までやり近く実演というところまできたのですが、私が病気をして出来なくなりました。当時は大きな学生組織のもとで、一定の方針のもとに結集して斗うという体制がなく、又出来ない状況のもとにつながつたと思います。翌昭和十年は学生運動の一一番低調な時であつたし、私も病氣勝でスランプを続けていました。

一九三六(昭和十一)年は御承知の二・二六事件がおこりまして、あれでかなり学生運動、文化運動も變つて來たように思います。和田洋一さんも同人であった「世界文化」という雑誌が三五年に生まれました。それまでは『美批評論』といふ同人誌であつて、それが『世界文化』になり、学者、文化人、そこへ若い人たちも結集し活動を始め

た。

(4) 学友会の民主化 学生評論の発行

その影響を受けたのでしよう学生間でも積極的に世論の組織化を始めるようになります。学生運動の一一番大きくな问题是学友会の民主化という事で、今日いう「学生自治会」ですが、自治会運動はずっと以前から彈圧の対照になっている。だから合法的な全学的機関である学友会の民主化をはかり、民主的な学生の代表を委員として送り込み、学友会を実質的に自治会組織にします。そのためにその基盤になるものとして高校別単位の同窓会の横の組織としてつづつた。先に述べた永島なんかが指導的な立場にあつた訳です。その運動の中で機関紙『学生評論』を出しました。メンバーは、京大の『学園新聞』社の同人たちで、滝川事件を通じて、学生にも自由な言論表現をする事が出来なくなつたので、学校側の統制と圧迫に対する不満をもつた同人たちが、中心となつて『学生評論』が生まれたということです。研究会活動による真理の探求、学生の生活擁護と学内の民主化を標榜して組織されました。その編集部には元『読売新聞』にいた闇原利夫君もいました。私は高知高校の同窓会を基盤にして編集部に参加しました。一九三六年五月『学生評論』を発行して翌年の七月まで発行を続けましたが、一九三七年七月七日、北京郊外の蘆溝橋での日本軍と中国軍の衝突がおこると共に七月九日政府は政界、財界、言論界に举国一致の抗力

をもとめ、天皇主義、軍國主義を強調して、日本人民のいっさいの思想的抵抗を庄毅することにつとめました。京都の『世界文化』のグループも検挙されという情勢下で『学生評論』も発行中止されたわけです。『学生評論』の編集名義人は京大の先輩の三輪勝治といふ弁護士で後に社会党から岐阜市長に候補した人で、最後は草野正彦さんでしたが、この人は三七年私たちが卒業した年に検挙されました。この『世界文化』にせよ、一応の検閲を受け、書店に出し一般的にも投稿を受けた全くの合法誌であつたにもかかわらず「日本で人民戦線をつくろうとした」『いまや国策上、民主主義、自由主義は共産主義の温床になる』という理由で『治安維持法』による弾圧を受けたのです。

(5) 反ファシズム運動

私達の運動は、それまでのプロレタリア文化運動が大弾圧をうけた次の時代に屈するわけです。そこころの運動のかたちといえば文化運動のゲリラ戦ともいふべきで、全国的に無数の同人誌を中心としてサークルがつくられていました。だからそれまでの時代がプロレタリア運動の時代であれば、我々の伝統をついだ、レジスタンス運動、ファシズムと戦争に対する抵抗の運動といえるのではないかと考えられます。しかし主観的には、今考えるとそのへんははつきりしていなかつたのではないかと反省しています。ただ前ではないかと反省しています。ただ前の時代のプロレタリア運動の伝統を受けていいでやるという意識はあつたにせよ、本当に戦争に反対する抵抗運動と

をもとめ、天皇主義、軍國主義を強調して、日本人民のいっさいの思想的抵抗を庄毅することにつとめました。京都

いうとらえ方が明確でなかつたのでは

ないか、だから当時の同人雑誌を見ますとそのへんが不統一で、非常に高度な、意識のはつきりしたマルクス主義の立場にたつている作品があるかと思うと小ブルジョア的な民主主義的なものもあるというふうに混乱しています。

そのへん私等の意識は弱かつた、まあいろいろな弱点がありました。とにかく統一的な組織がない。従つて人民戦線が広はんな人民の組織といわれていますが、フランスやスペインにおけるごとくやはり共産党が中心となって組織されてこそ本当の人民戦線といわれるべきでないかと思います。勿論その時は日本共産党は弾圧による壊滅状態の時ですから我々にはそうした統一指導部がなかつたわけです。

戦前の運動についてはあまりはつきりお話し出来ないままに終つたわけですが、戦後になりまして文化運動も理念的にも統一すべきでないかと提唱されまして戦前のプロレタリア文化連盟に等しい民主主義文化連盟というのが組織されました。少しづながら今まで戦後は機会を改めてお話ししたいと考えます。

（文責・井上 秀雄）

ゲスト紹介

藤谷俊雄氏は一九一二年京都市下京区高瀬川上る即現寺に生れ、高知高校を経て一九三七年京都大学文学部史学科を卒業、現在は、社团法人「部落問題研究所」理事長（所長）、立命館大学文学部講師であり、また即現寺住職、「たかせ保育園」長である。

父、兼光の思い出(二)

新労農党をめぐつて

細迫朝夫

『新労農党樹立の提案』が公表され

(K氏とは小岩井淨氏、S氏とは鈴木安藏氏と思われる。『研究』は『社会問題研究』であることはいうまでもない。『研究』第九十六冊九月号に『小児病を克服せよ(レー・ニン著『小児病』の紹介が掲載され、激しい論争がはじまる。)

父、兼光の政治的生涯において、新労農党問題をめぐる経験が大きい影響を残したことには既に述べた。

その結成過程において、父が中心的役割を演じたことは間違いない。父が東大新人会以来もつとも敬愛した友人である小岩井淨氏も、その著『冬を凌ぐ』のなかでこう述べている。

「河上、細迫両者間に一体どこまで具体的に話が進んでいたか、これは自分にもちよとわからない。二人が固く決意して、まず最初に自分たちを陥落させたのか、案外自分たちが乗り気になつたので、二人の漠然とした希望意見を具体的な決意にしたのか、これはいつか、お二人にたずねてみようと思つていて、まだ果さないことである。がとにかく、最後まで新労農党を守つた大山郁夫氏が、最初の話に關係がなかったことは確かである。」

この経緯の基本については、父も「河上先生と実践」「回想の河上肇」のなかで簡潔に述べているが、これについてはあとでふれることにする。この結成過程における父宛の書簡を父は保存していたが、小岩井淨、稻村隆一、村山藤四郎各氏とのそれとともに、とくに河上先生のそれが量的にも多い。そして、先生が自ら『自叙伝』に述べてみえるように、いわゆる新労農党の結成に極めて積極的であったことはこの書簡からも十分にうかがうことがで

河上先生は、今度の場合も、一以貫ぬこうとされている。これが翌年八月の解消問題をめぐつて、父と一時的にきびしく対立することとなる。このとき、父が先生に書簡で意見を述べているが、その返事はこの書簡にそのまま反論を述べる形で激しいものがこめられている。

先生が入獄中も書簡の交換は続いている。父がもつとも尊敬して

『提案』公表後、先生の結党促進の決意はさらに強められる。九月にはいると矢継早々に書簡を送られている。そのうちの一通。

「……私は結党実現以前は自身であまりもの言はずにいたいと考え、従つて他からの有力な賛成意見を載せることを希望しているのです。……

分或る有力な報告の論文で、左翼組合は全く時機の関係があるので、一応貴兄の御意見を伺います。この度の『研究』(八月四、五日頃発行)を利用する機会を逸したら、それからすぐには、

それほど有効な機関を利用する機会がないと思うので、御多忙をも顧みず、一忘御意見をおもしらし願いたく存ずる次第です。……

第三種郵便物認可のために

おねがい

本誌『燎原』は毎月定期に刊行し、時事問題をのせて、発行部数も、○○○部を越えているが、有料購読者(会員・誌友)が七割にも達せないので、

○部を越えているが、有料購読者(会員・誌友)が七割にも達せないので、

まだ、第三種郵便物を認可されません。

現在、発送は第一種郵便物として封書し、一部二五グラムまで六〇円、五〇グラムまで六〇円、以上は不定形料金として過分の郵送料を払っています。

第三種郵便物は帶封で、五〇グラム

まで四〇円、以上五〇グラムを増すごとに五円を加え、一キロまで有効です。

この際、会員・誌友のご協力を得て第三種郵便物の認可条件を獲得するた

めに、会員・誌友の倍加をはかりたい。何卒よろしくお願ひします。

(追伸)『研究』の編輯が迫つてるので、いろいろ困る事情があります。もしレー・ニンの『小児病』をこの際『研究』に載せるならば、その原稿を送るとき同時に、編輯者(S氏ただ一人)へ『新たな計画』のことを私が伝聞してやり且つそれへ賛成しているということを申出でたく思います。かかることを私が敢てしても差支ないという時に、例えれば『差支なし』というやうな電報でも下さらば甚だ仕合せに存じま

る。学生層からの攻撃と、言はば四面楚歌(それほどでもない、これは大げさ)ですが、私は何と言はれても可い

なるものと云われているが)。

一、京都では水長一派からの攻撃と

その裏で、いろいろ困る事情があります。

もしレー・ニンの『小児病』をこの際『研

究』に載せるならば、その原稿を送る

べきです。

時代の思い出
表

このたび東京で「治安維持法国家賠償要求同盟」第十二回定期総会が開かれたとき、京都の北牧孝三さんが「燎原」第十五号を参加者全員に配られ、

れたものたちが多く、そのため診療所へは特高の刑事がよく出入りして活動家を検束したり、患者や私たちまでおどかし、攻撃したりしました。

二階は岸候さんその他無産団体の

道代、雑費などの出費は、毎日の医療費
収入で賄うのがやっとで、私が会計担当
でやりくりに困りました。広田さん
に相談しながら無駄な金は使わないよ
うに、特に食費などを切りつめながら
何んとか皆で食べていけるだけは維持
したいと頑張ってきました。

私達作業隊の宿舎、口田小学校は広島市から三里（一二キロ）ほどはなれ

私は初めて「燎原」の内容を読んで驚きました。杉山先生のお話の中で、太田先生と私の事が、一方的に誤解されたまま発表されています。

当時の診療所は、医者にかかれない貧困者や官憲の弾圧で重病になつているギセイ者たちを、先生方は敵の攻撃をも恐れず、その先頭に立つて治療を当り、私たちも献身的に頑張つて働いていました。特に洛北診療所は闘う味方の大切なトリデになつていました。それなのに眞面目に活動していた者へ汚名を着せ冒瀆し攪乱して、後になつても再建できないようにした奴がいたことは、私は「燎原」を読んではじめて知り、長い間デマられればなしになつていたかと思うと残念で悔しくてなりません。

私は一九三一年二十一才の時に社会運動に身を投じ、洛北診療所に勤務し

診療所の患者は一日平均二、三十人位いで、その半数近くは医料費の支払えない状況でした。特に産児制限の手術料は大きく、活動家の主婦はほとんど未払いになつた儘です。広田さんと太田先生に医療費を支払ってくれない患者さんが多くなつてゐる実状を話すと、会計内容を報告しても先生は笑つていて何も云わないので私たちもその儘にしていました。先生方は当初から、無給ですが、広田看護婦も、斎藤見習看護婦も私も給料はほとんど貰つたことがなく、私たちは風呂代、ちり紙、浴用石けんも買えないので、太田先生が広田さんと私に僅かな金をその都度出してくれました。斎藤さんは昼間は他で働き夜だけ手伝いにきていました私は見習い看護婦兼家政婦で居候たちも含めて毎日五、六人の食事の支度を受けもつっていました。

韓部の人の留り場になり、時には会議の場ともなり出入りの人が多く、北原泰作氏も毎月半月位いは来ていて「全水」の解説論文を書いたり、大会方針案を作成していく、朝喜と大声でよく議論し、時には喧嘩して北原氏が怒つて何日も筆をもたないでいる日がありました。

また他団体の幹部連中でいろいろの問題が討議されているのを聞いていて私はとつては素晴らしい耳学問になりました。私たちの勤務時間は診療が夜間だけなので、昼間や休日には、マルクス、レーニンの本を一生懸命に読みました。むづかしくて解らないところは居候さんや出入りの幹部に教えてもらい、講師には不自由がなく、一人では読みこなせない本を一年間生活している間に何冊も読むことが出来ました。その点で私にとっては診療所は素晴らしい学習の場であり、尊い職場でした。

居た。米機が一機飛んで来た、また来てもの凄い轟音と共に熱風をあびた。近くに爆弾が落ちたと思った。近くの小山に駆け上つて見ると、近くに落ちた様子はなく、広島方面に煙りが上り空一面が暗くなると、きのこ雲がむくむくと上つた。巨大な爆弾を数機で落としたと思った。

十一時頃になると、男女の被爆者達が、ボロボロな姿で虚脱したようにな道をボチボチ歩いて来たが、見てる間にぞろぞろに変った。歩けなくなつた者は、ぞろぞろ小学校に入つて来た。薬の外交員で、病院へ出入して居たことのある隊員が、医者に早めりして指揮を取り、私達はそれに従つて手当した。八月十五日の放送は、被爆者の世話ををして居る時聞いた。

敗戦を知つて、男女の被爆者達は不安に怯えて動搖した、なかには泣き出

ました。当時の診療所は「住民の生命と健康とくらしを守り、働く人々の権利と民主主義を守るために」に、はじめから常利を考えずに、一般医院よりずっと安い診療費で、患者の多くは部落内の貧困者、無産団体の活動家で、長期の活動で身体を悪くしたもの、警察への拷問などで病気になり、仮釈放さ

診療所の患者は一日平均二、三十人位いで、その半数近くは医療費の支払えない状況でした。特に産児制限の手術料は大きく、活動家の主婦はほとんど未払いになった儘です。広田さんと太田先生に医療費を支払ってくれない患者さんが多くなっている実状を話し会計内容を報告しても先生は笑っていて何も云わないで私たちもその儀をしていました。先生方は当初から無給ですが、広田看護婦も、齊藤見習看護婦も私も給料はほとんど貰ったことがなく、私たちは風呂代、ちり紙、浴用石けんも買えないので、太田先生が広田さんと私に僅かな金をその都度出してくれました。齊藤さんは昼間は他で働き夜だけ手伝いにきていました私は見習い看護婦兼家政婦で居候たちも含めて毎日五、六人の食事の支度を受けもっていました。

韓部の人の留り場になり、時には会議の場ともなり出入りの人が多く、北原泰作氏も毎月半月位いは来ていて「全水」の解説論文を書いたり、大会方針案を作成していく、朝晩と大声でよく議論し、時には喧嘩して北原氏が怒って何日も筆をもたないでいる日がありました。

また他団体の幹部連中でいろいろの問題が討議されているのを聞いていて私はにとっては素晴らしい耳学問になりました。私たちの勤務時間は診療が夜間だけなので、昼間や休日には、マルクス、レーニンの本を一生懸命に読みました。むづかしくて解らないところは居候さんや出入りの幹部に教えてもらい、講師には不自由がなく、一人では読みこなせない本を一年間生活している間に何冊も読むことが出来ました。その点で私にとっては診療所は素晴らしい学習の場であり、尊い職場でした。

居た。米機が一機飛んで来た、また来たなと思った瞬間、パット明るくなつてもの凄い轟音と共に熱風をあびた。近くに爆弾が落ちたと思つた。近くの小山に駆け上つて見ると、近くに落ちた様子はなく、広島方面に煙りが上り空一面が暗くなると、きのこ雲がむくと上つた。巨大な爆弾を数機で落としたと思つた。

十一時頃になると、男女の被爆者達が、ボロボロな姿で虚脱したよう衝道をボチボチ歩いて來たが、見てる間にぞろぞろに変つた。歩けなくなつた者は、ぞろぞろの小学校に入つて來た。薬の外交員で、病院へ出入して居たことのある隊員が、医者に早めりして指揮を取り、私達はそれに従つて手当した。八月十五日の放送は、被爆者の世話をして居る時間いた。

敗戦を知つて、男女の被爆者達は不安に怯えて動搖した、なかには泣き出するものも出了。アメリカ軍が來ても、馬鹿なことは起きない、これからは昔より良くなると、物知り顔で被爆者達に説いてまわつた。

土曜日以後

みに専心して真面目に生きていたことを、七十才になつた今でもほこりに思つています。

診療所で使っていた医療機器が、太田先生の応召などで閉鎖後なくなつていたとの事ですが、誰が持ち去り処分したのでしょうか。当時からすでに腐敗分子がいて、献身的に活動している者

治安維持法半セイ者

このたびの東京都議会議員の選挙は日本の民主主義を代表する日本共産党の勝利という印象を全国民に与えた。私たちも全国的な政治決戦ともいふべき今回の東京都議会議員の経験に学ぶことが必要だと思います。

私はこの都議選がはじまる前後、約二週間、上京して知人や都民の方々と親しく話合いました。私が参加した主な選挙区は、新宿区と港区を中心に、その他一、三の区でしたが、その中でとくに国民救援会の方々や、「治安維持法」ギセイ者国家賠償要求同盟の皆さんと共に闘う中で、真陥に話し合つたこれらの人たちは最大の戦争ギセイ者だったからです。

各選挙区でうけた貴重な体験が沢山あるが、私にとって最も大きなことは、「治安維持法」がどんなに多くのギザギザを出したか、そして、国家賠償の問題が、余りにも軽視されていたことです。

北い
て
牧
孝
三

助先生で、事務局長は石黒周三さんです。その外事務局の皆さんのお献身には心から頭がさがり、眞の民主主義を支える力であることを痛感しました。

その際学んだ一つに、ナチスドイツがボーランドで「ユダヤ人強制収容所をつくり、二十五万人が虐殺された事件で、元同所の女看守のヘルミーネ・ブラインシタインナリヤン(年令六一才)など七名が、戦後三十余年を経た一九七六年に、戦争犯罪人として起訴されこのほどリヤンは終身刑、他の六人は三年と十二年の禁錮刑が云い渡されました。(本年七月一日ボン発毎日新聞特派員ニュース)事件後五十年近く過

また現在もなお追求がつづけられています。

前号本誌十七号第五面の「京都の文岡化運動を語る」大阪大岡欣次氏談は太田正誤の誤りで、同号十二面「領収書に代えて」の誤り。中嘉男（石川）は嘉明氏の誤り。細道朝夫（北）は細迫朝夫氏の誤り。右つしんで誤りを訂正します。

このたびの東京都議選に参加して、私たちちは若い熱情を奮い起し、これまでもあまり振わなかつた、関西、中国、四国、九州の同志たちに呼びかけ、治安維持法ギセイ者国家賠償要求を通して、戦争反対、軍備増強の中止の一大運動をまき起すために奮起すべきときである。

軍備の増強をはかつています。
私たち、治安維持法によるギセイ者
は、自己の国家賠償を要求するだけ
なく、再び日本全国民の戦争ギセイ者
を出さないために、私たち治安維持法
ギセイ者は、その一員として、声を大
にして、二度と戦争を起さないよう、
断乎として闘わねばなりません。
このたゞの東京郊外選に参加して、

この二つのニュースは、戦争犯罪罪人の不適要を示し、学問的にきびしく批判している。西独・フランスの例ですが、このように欧州では、戦争罪犯者は今も尚きびしい追求をうけているのに対し、日本の現状はどうでしょう。

天皇制のもとで日本人の生命を虫けら同様に取扱った、軍閥、官僚、とくに特高警察の旧幹部が、今日自民党紳士裁の最高幹部として、ソ連に対する敵がい心を煽り、韓国の軍独裁政権を支持し、アゼヤ西部における石油資源を確保するために、アメリカとの安保同盟を強化して、又もや戦争準備のため

はないのだが予定通り出発した。
広島駅も、先々の駅も列車も、**兵隊**
や地方人で大混雑である。その混乱の中を七十名程の人間が、無駄と解つていても命令通りに行動するのである。命令にしばられる、軍隊の組織の非能率性をまさまで見た。将校と云えども将棋の駒にひとしい、へたな指手である独善的な戦争指導者達の命令に従つて死んで行く者こそ衰弱である。

敗戦と定めたので、大尉はどんなお説教を云うか、興味を持つて居たが、大尉の演説はさばさばしたものであつた。敗戦の悲壮感などぜんぜんなく、八紘一宇も、神州不滅も消し飛んで、ケロッとしたものである。戦争に敗けてすまなかつたの一言も出て来なかつた。職業軍人とはよく云つたものである。変り身の早い彼らの態度は全く職業的であった。

本土決戦にそなえて、陣地構築の仕事があるかも知れぬ。高給が出るから志願して残るようにと呼びかけがあつた。本職の土工達は残るつもりで、手続きをするようであった。私は休暇で妻の実家へ帰ったが、それきり大阪へは戻らなかつた。（終り）



残暑お伺い申上げます

1981年 盛夏

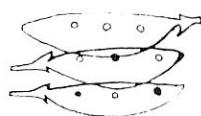
安井病院	左京区田中玄京町 電話 七〇一一六一一一五番	猪熊診療所	南区西九条猪熊通り東寺道上ル東側 電話 六九一一六一一三番
川端診療所	左京区川端通り夷川上 電話 七七一一六二九八番	西七条診療所	下京区西七条西久保町一四ノ八 電話 三一三一〇四〇一番
田中診療所	左京区田中玄京町二五 電話 七八一一四五五〇番	北病院	北区紫野上築山町三二 電話 四三一一六一七一九三番
東山診療所	東山区今熊野宝藏町四三 電話 五六一十五五〇番	待鳳診療所	北区紫竹西南町六五 電話 四九一一〇二七九番
右京病院	中京区西ノ京小堀池田五 電話 八一一一五一六六番	上賀茂診療所	北区上賀茂山本町五〇 電話 七八一一四〇九番
盛林診療所	上京区黒門通下立売下る森仲町 電話 六〇〇〇八四一一五九三六番	柏野診療所	北区出雲路俵町二五 電話 四六一一八八一一番
春日診療所	右京区西院下花田町二一 電話 三一一一三一七六番	かも川診療所	北区出雲路俵町六二 電話 二三一一三八〇三番
朱雀診療所	中京区京永本町一九 電話 八二一一三二八二番	あやべ診療所	綾部市本町四一一六 電話 大津二四一八一一四番
上京病院	上京区千本通上立売上る作庵町 電話 五〇四〇四三二一一二六一番	膳所診療所	大津市昭和町七一一六 電話 東入主税町一二五四
仁和診療所	上京区仁和寺街道御前西入る下 横町二三〇〇電話 四六二一一五一〇番	近畿高等看護専門学校	上京区智恵光院竹屋町 電話 八四一一七四三〇番
吉祥院病院	南区吉祥院井ノ口町四三 電話 六七二一一三三一一番	京都医療事業協同組合	右京区西院久田町九 電話 全京都建設会館五階 三一二一八五七三番
久世診療所	南区久世殿城町三三 電話 九二一一三五三五		
九条診療所	南区東九条御靈町二 電話 六九一一七五八八番		
京都民主医療機関連合会	右京区西院久田町九 電話 全京都建設会館五階 三四一一五〇一一番		

残暑お伺い申上げます



1981年 盛夏

京都府商工団体連合会 府中小企業会館 電話 三一七一七一〇一番(代)	八幡民主商工会 八幡市八幡三本橋六〇の五 山本ビル2F 電話 ○七五十九八一一六〇九三番
北民主商工会 北区西賀茂南川上町二五 電話 四九二一一二〇六三番	相楽民主商工会 相楽郡山城町上猪小字西作道 四四の二 電話 ○七七八四八六一四三三二番
上京民主商工会 上京区仁和寺街道千本東入 電話 四三二一一二六一〇一一番(代)	西京民主商工会 西京区松尾鈴川町八三の二 電話 三九一一二六七一一番
中京民主商工会 中京区西賀茂南川上町二五 電話 二三二一〇一〇一〇一一番(代)	向日民主商工会 向日市寺戸町飛竜七の七 電話 九三三一七〇〇四四五番
下京民主商工会 下京区七条新町東入る 電話 三六一一七三八一一番(代)	乙訓民主商工会 長岡京市阪急長岡天神駅前 電話 九三三一五八四八番
南民主商工会 南区東九条河辺町二九 電話 六六一一〇九〇一一番(代)	龜岡民主商工会 龜岡市追分町大堀一七の一 電話 ○七七一二一三一一五七七番
左京民主商工会 左京区田中西大久保町二一 電話 七二二一三三三〇番	船井・北桑田民主商工会 園部町河原町五一二三 電話 ○七七一六二二三五五〇番
東山民主商工会 東山区東大路松原上る東入 電話 五四一一五一六一七	綾部民主商工会 綾部市本町 電話 ○七七三四二五三三八番
山科民主商工会 山科区村辻中在家町二八 電話 五二九一五八六八番	福知山民主商工会 福知山市堀下高田二三九三 電話 ○七七三(二二)五一九七番
右京民主商工会 右京区西院上花田町三六の三 電話 三二二一三二五七番(代)	舞鶴民主商工会 舞鶴市北吸 市役所前 電話 ○七七三(六二)一八六〇番
伏見民主商工会 伏見区桃山毛利長門西町一 電話 六二二一一二三三番(代)	与謝民主商工会 宮津市龜ヶ丘 宮津劇場前 電話 ○七七二二(二)五〇二〇番
宇治民主商工会 宇治市槇島石橋三三 文本ビル 電話 ○七七四(二三)八〇一一番	丹後民主商工会 中郡峰山町荒山大坪四二五 電話 ○七七二六(二)一四三九番(代)
城陽・久御山民主商工会 城陽市平川中道表 電話 二の一二 電話 ○七七八四五(二)七八一三番	個人タクシーサービス協同組合 左京区田中西高原町 二七 電話 七二二一三四〇番



残暑お伺い申上げます

1981年 盛夏

京 都 市 職 員 労 働 組 合	自 治 労 京 都 府 本 部	中京区壬生仙念町(労働者総合会館内) 電話 八〇一一八一八六九番	
委員長 三 村 義 夫	委員長 吉 田 平	中京区河原町御池(京都府役所内) 電話 二四一一一八二三番	
京 都 府 職 員 労 働 組 合	京 都 市 職 員 労 働 組 合 協 議 會	左京区丸太町通新道上る(京都府教育会館内)	
委員長 大 江 洸	委員長 大島久次	京都市教職員組合(電話七七一一九一七一番) 京都市立高校教職員組合(電話七七一一三二八番) 京都府立高校教職員組合(電話七五一一六四五番)	
京 都 市 職 員 労 働 組 合	京 都 市 役 所	中京区丸太町新町角 電話 二一一五三七一(代)	
委員長 三 宅 勝	日本共産党京都府委員会	総務局長(電話三二二一三〇四〇番) 職員局長(電話三二二一三二三三番) 民生局長(電話三二二一三三六一番) 清掃局長(電話二二二一三四四〇番) 東野康寿春 武和男夫 清水彦春	
日本共産党京都市会議員団	日本共産党京都府会議員団	中京区下立壳釜座(京都府役所内) 電話 四五一一八六二二番	
團長 三 宅 勝	團長 西山秀尚	副委員長 梅安井 田中田井真 善 男弘勝造	

中京区河原町御池(京都府役所内)
電話 二二二一三八八三番

中京区河原町御池(京都府役所内)
電話 二二二一三七八八番